

よどじん 特別編

ブルーのシャツと紺のベスト、左胸には階級章が輝く。
取材前、ピリッとした雰囲気、力強いまなざし。
……なんにも悪いことしてないけど、やっぱり緊張するなあ。
でも、お話を聞いてみると、「ひと」に寄り添いたいという
思いがひしひしと伝わってきました。

今月のよどじん<特別編>は、淀川区の安全と安心を見守る、

大阪府淀川警察署 三国本町交番

巡査部長 ^{いとう}伊藤 ^{あきら}明さん
巡査 ^{おおむら}大村 ^{らむ}果夢さん



▲大村 果夢 巡査

厳しいところに、 あえて飛び込む

大村巡査は宮崎県出身。地元の警察も受験したが、西日本最大の組織である大阪府警を選んだ。多くの人が集まる大阪では、警察官の活動の幅も広がる。「いろんな経験を積んで、レベルアップしたい」。

採用試験のときに足を踏み入れた府警本部の威厳に満ちた雰囲気に、一瞬で心を奪われた。「あ、ここで働きたい」。直感的にそう思った。

自分のできることをする

伊藤巡査部長の自慢は、学生時代からラグビーで培ってきた屈強な肉体だ。昨年までは機動隊に所属し、府警ラグビー部でも活躍した。

ずっと、人の役に立つ仕事がしたい、と考えていた。人には、向き不向きがある。できないことは、助け合えばいい。自分が一番人を助けられる仕事は何だろう。

答えはすぐに見つかった。警察官なら、この思いも、鍛えてきた体も活かせる。



▲無線の情報に真剣な表情で耳を傾ける

見せる警戒

交番に勤務する警察官の仕事には、自転車などで地域をパトロールする「警ら」、家庭やお店を直接訪ねて話を聞く「巡回連絡」がある。しかし、新型コロナウイルスの影響で、今までのような方法で地域を訪問することが難しくなった。「せめて、制服姿を見て安心してもらえたら」。直接コミュニケーションがとれなくても、できることはある。警らの時間はおのずと増えた。

区民と会話する“ツール”

力を入れていることがもう一つある。「交番だより」だ。全国の警察でも同じような取組みはある。だが、交番勤務員が毎日地域を見つめ蓄積してきたデータと経験を反映させるのが淀川オリジナル。どうやったら読みやすいか。どうやったら防犯につながられるか。勤務員自



▲道案内も交番の仕事のひとつ



▲交番だより。地域の掲示板や区役所でも見られる



みんなの
“だより”
になりたい





▲伊藤 明 巡査部長



▲通報を受けたら、すぐに自転車で駆け付ける



▲ふたりが勤務する三國本町交番



▲警察手帳。何とも言えない重みがある

ら、知恵を絞って形にする。署長も目を通し、アドバイスを送る。紙の上でも、「被害をなくしたい」という強い思いは変わらない。

いちばん身近な “おまわりさん”として

「女性だからこそ、できることがあるはず」と大村巡査は語る。全国的に見ても、まだまだ女性警察官は多くない。「誰にも言いたくない、でもわたしにだったら話せる。そう思ってもらえるようになりたい」。そのために、笑顔を絶やさず、区民に寄り添うことを心掛けている。

「やっぱり『ありがとう』って言ってもらえるのが一番うれしい」とはにかむのは伊藤巡査部長。理想像は「頼ってよかつ

たと思ってもらえる警察官」だ。

それぞれの理想を追い求めるふたり。共通するのは、仕事に対する「誇り」と区民や地域への「思い」だ。警察の仕事は、来る日も来る日も地域を見つめ続け、少しの変化も見逃さず、「当たり前の日常」を保つこと。「当たり前の日常」を支えてくれて、ありがとう。



▲「子どもたちに『警察官や!』って手を振ってもらいたいこともあります。癒しです(笑)」



▲「ひと」への思いを語るそのまなざしは優しい



▲どこに行くにもいつも一緒。使い込まれているのがわかる

よどじん、再び。

いかがでしたか? 今月のよどじん。久々に、特別編としてお届けしました。またいつか……。



通報を受けて最初に駆け付けるのはわたしたち交番の警察官!
少しでも「おかしいな?」と感じたら迷わず通報してください!



淀川区区内でも、警察官や区役所職員になりすましてキャッシュカードをだましとる等の特殊詐欺が、今年に入って11件発生しています(7月末速報値)。

一、知らない電話番号には出ない!

一、キャッシュカードは出さない!

一、お金の話をされたら全部詐欺!

淀川警察署 地域課
立道警部補

「いつも」と違うことがあれば、
まず疑ってください!

淀川警察署	☎6305-1234
淀川区役所市民協働課	☎6308-9734
大阪市消費者センター	☎6614-0999